

ラジオ波による 深部温熱を操る。

運動療法との併用も
可能にする治療器。

深部熱・温熱効果

疼痛の改善

筋痙縮の改善

関節性拘縮の改善

ラジオ波温熱セミナー 福島

テーマ 臨床、スポーツ現場での活用法

日時 2019年10月5日（土）
17:30～19:30（受付17:00～）

場所 ビッグアイ 7階 第3会議室
福島県郡山市駅前2-11-1

参加費 無料 **定員** 20名

お申込

弊社「酒井医療」のホームページよりお申込みください。トップページの「セミナーイベント」から「セミナー一覧」ページへアクセスすることができます。該当のセミナーからお申込フォームにご入力ください。

講師紹介



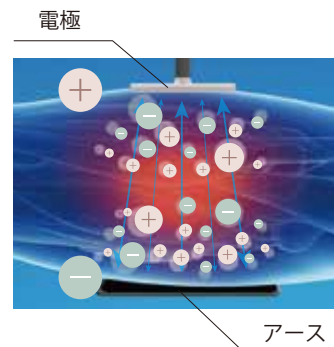
高橋智士 (satoshi takahashi)

・酒井医療株式会社 販売推進室 上級専門職

「抵抗の高い場所に温熱が集まる」特性

ラジオ波温熱の原理

電極とアースで体をはさみ、+極と-極を1秒あたり数十万回変化させて体内の分子を振動させることで、分子同士の摩擦熱（ジュール熱）を発生させることで体を温めます。体外から熱を与えるのではなく、体内で熱を発生させる深部加温が可能です。そして従来の温熱機器と大きく異なるのは「抵抗の高い場所に温熱が集まる」というラジオ波の特性にあります。



2種類のプローブで様々なアプローチを実現

軟部組織

筋肉	筋膜
腱膜	血管
リンパ	



硬組織

靭帯	腱
関節	骨膜
骨	



高い疼痛緩和効果と 温熱持続性の実証

15分の施術で、温熱の届く深さは5~10cm、体内温度を3~5℃高めます。施術後も体内温度はすぐに下がることがなく、3~4時間維持される特長を持っています。腰痛を含めた様々な疾患に苦しんでいる患者※の81%に対して痛みの軽減に高い効果が認められています。

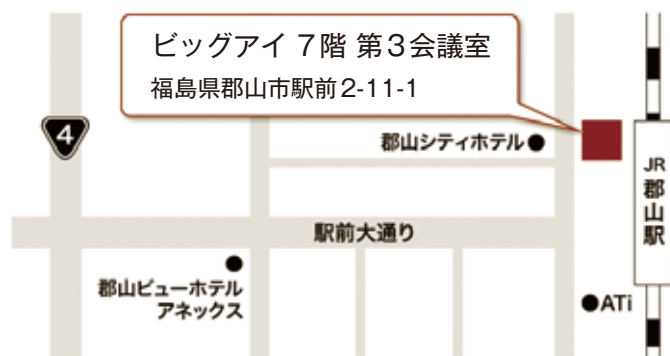


※ 引用文献：腰痛に対する静電容量の電気転送温熱療法の臨床効果

Clinical Effect of Capacitive Electric Transfer Hyperthermia Therapy for Lumbago

Kuniyasu Takahashi 1), Tetsuo Suyama 1), Makiko Onodera 1), Shigeru Hirabayashi 2), Nobuyuki Tsuzuki 2), Li Zhong-Shi 2) 1) Department of Rehabilitation, Saitama Medical Center, Saitama Medical School, Kamoda-Tsujidomachi 1981, Kawagoe City, Saitama 350-8550, Japan 2) Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical Center, Saitama Medical School J.Phys.Ther.Sci.11:45-51,1999 © The Society of Physical Therapy Science

セミナー会場



お問い合わせ

酒井医療株式会社：03-5227-5775
(当日のご連絡先：080-5940-5633)